

平成19年度第2回和光市国際化推進懇話会会議録

- 日 時 平成19年11月21日(水)13:30から15:30
- 会 場 和光市役所6階 603会議室
- 出席者 田中明、山田浩人、鈴木直幸、近長武治、原田豊造、宮嶋ひろみ
- 欠席者 溝田佳子、対馬聡一郎、宮内邦雄 (敬称略)
- 事務局 人権文化課長 牧野、人権文化課長補佐 河野、
文化国際担当統括主査 亀井、同担当主事 山口、国際交流推進員 後藤
- 配布資料

次第、和光市国際化推進懇話会 スケジュール(資料1)、和光市国際化推進懇話会に対する意見書より概要【まとめ】(資料2)、市民海外派遣事業の実績等(資料2-1)、和光市文化紹介国際交流バスツアー しおり(資料3)、平成19年度 彩の国国際貢献賞授賞式 チラシ(資料4)

◇ 議 題 ◇

1 任期中のスケジュールについて(資料1)

【事務局】第3回会議は2月ごろ、第4回会議は来年度に入ってからを予定している。7月31日までの任期中に最終報告を市長に提出していただきたい。

2 今年度の議題について(資料2、資料2-1)

【事務局】前回会議で、市民海外派遣事業以外についても協議していく必要があるという意見をいただいた。そのため、特にどのようなことについて協議するのかを事前に皆さんに意見書としてご提出いただいている。いただいた意見書(資料2)に基づき協議していただきたい。

協議を始める前に、事務局よりお願いがある。この懇話会の意見は、現行の和光市国際化推進計画に位置付けられている範囲内の内容でお願いしたい。市としては、平成23年度までの5年間は、この計画に基づき各種施策を実施している。現行計画を飛び越えた内容とならない範囲内で議論をしていただきたい。

【田中会長】事務局から説明があったが、これに対して意見はあるか。

【近長委員】具体的に何が範囲内か、範囲外なのか。計画に載っていてもまだ実行されていないものもある。やるとして、やっていないのは計画違反ではないか。事務局の意見は分かるが、懇話会の判断で協議するかしないかを決めていいと思う。計画にないから、話してはいけないとなると懇話会の議論が活性化されない。

【鈴木委員】施策については、時代の流れに沿って変えていくべきではないか。計画に

あるから、そうしなければならないということはない。改善できるところは改善していくべきである。

【原田委員】現計画に位置付けられていない内容についても、次の計画に反映させるために意見として出すべきである。

【鈴木委員】中間報告や計画をじっくり読んだが、計画は抽象的なところがとても多い。具体的なところがほとんどない。施策がそのとおりに実施されているのかも分からない。具体的でないため、受け取り方によっては、どのようにでもとれる。施策の範囲内であると思えば意見として提出したつもりである。

【田中会長】それでは、現在は A ではないが、将来的には A であってもよいのではないか、という前向きな提案を懇話会として提出してよいのではないか。現行の計画に位置付けられていない範囲の内容についても、今後を活かしていくべき意見ということで協議をしていく。

【田中会長】市民海外派遣、姉妹都市との交流について皆さんからいただいている意見を発表していただきたい。

【原田委員】過去の市民海外派遣事業はどのように実施されたのか。

【田中会長】資料 2-1 に載っている。

【事務局】(1)の表について。参加者というのは、公募の市民である。市民負担費用は参加者一人当たりの負担した金額である。市経費は、現地で移動のためのバス代と交流会費用と引率職員の旅費が含まれている。市民負担費・市経費でブランクになっている部分があるが、これは調べた結果、不明であったため掲載できなかった。平成 11 年に姉妹都市提携をした。平成 11 年以降の資料はきちんと管理している。

【田中会長】参加する市民がだんだん減ってきている。さまざまなニーズを考慮し、企画でかなり魅力的なものを提案しなければ、参加者がいなくなってしまう。

【鈴木委員】平成 11 年に姉妹都市提携の調印をしたが、その中身がよくわからないというのは大変不思議なことである。10 年目の節目の年ということもあるので、当時の状況がよくわからないのであれば、現在の市長さん同士で相互のあり方について検討するべきである。ロングビュー市が和光市のことをどのように考えているのかを知りたい。「和光から中学生が来る」という捉え方なのか、和光市といろんなことを交流しながらやっていきたいという前向きな考えであるのか。和光市長がどのように考えているかによって、予算にも響いてくるのではないか。また、和光市と共通点を持つ都市や、和光市に姉妹友好関係を求める都市と姉妹都市提携することも一つの選択肢である。

【山田委員】従来型の旅行的な市民派遣はやめて、公募で和光市の代表団として派遣する人を選び、派遣後も市の国際化に積極的に関わってもらうようにしてはどうか。市が旅費等全額を負担するという形ではどうか。

【宮嶋委員】 ロングビュー市を知らない、どこにあるか知らない市民は多いと思う。周知が足りていない。

【山田委員】 学校で、ロングビュー市について総合学習の時間などに勉強することは可能か。

【鈴木委員】 可能である。小学校四年生の副読本に「私たちの郷土、埼玉」というものがあるが、そこには県の姉妹都市が紹介されている。和光市で言うと三年生の副読本「わこう」に和光市の姉妹都市であるロングビュー市について紹介するページを作ることにについては、可能性はあると思う。

【田中会長】 小中学校については、ある程度 PR する機会を作ることができるようだが、一般市民に対しては難しい。市民まつりなどで PR しているが、それでも周知が足りていないというのが実情である。皆さんの意見を伺いたい。

【山田委員】 和光市の特色、ロングビュー市の特色を踏まえた上で、どのような交流ができるのかということを考えなければならない。

【近長委員】 中学生海外派遣事業について、確かに「行き来」はできていないが、現地での交流やホームステイの受入など、行った瞬間には「交流」ができていとも考えられる。小学校の AET をしているラズ先生はロングビュー市出身であるし、まったく縁がない訳ではない。

【原田委員】 今までの市民派遣はほとんど観光旅行であるように思う。目的や課題をしっかりと持つ必要がある。

【原田委員】 中国には「ぜひ日本の都市と姉妹都市になりたい」という都市もあり、無理矢理お願いするような形にはならない。お互いの意志で交流できるのではないか。要検討である。

【近長委員】 市民派遣事業については、いろいろと疑問があるが、これまでの経緯等からみて、まず、行くという視点で検討してはどうか。しかし、行くためにはしっかりとした裏づけが必要である。そのために、まずこれまでの実績の評価をする必要がある。今まで市民海外派遣事業に参加された人 5,6 人に集まってもらい、市の政策としてどのような評価をされるか聞くというのも一つの方法である。できれば、第 3 回会議までに実施していただきたい。また、中学生の派遣事業について学校教育当局の意見を整理してもらいたい。そうすると、和光市の国際化推進施策として、どのようなメリットがあったのかを事務局に箇条書きの形で挙げてもらいたい。

【近長委員】 仮に市民派遣を実施するとした場合に、問題はどのようにすれば市民全体から支持されるか、である。大前提として派遣事業の目的を明確しなければならない。これは懇話会の役割でもあるかと思う。

【近長委員】 従来の事前研修は、一般の旅行前の事前説明と変わりがなく、「公費を使

って行く」事前の研修としては不十分である。派遣後は本当に報告会のみでよいのかどうか。

【近長委員】図書館にあるロングビュー市からの寄贈図書を市民にもっと周知し、ロングビュー市という姉妹都市をきっかけに市民が国際的視野に立ったものの見方ができるようになるのではないかと。我々の方がロングビュー市を理解していないのではないかと。

【近長委員】中学生海外派遣事業については、行く方も迎えるほうも大変良い評価をしているという印象を受けた。しかし、姉妹都市という関係がなくなってしまうと、この事業は続かなくなると思う。姉妹都市は特別な理由がない限り解消せず、もっと市民からこの事業に対する評価を得られるようにする必要があるのではないかと。

【鈴木委員】観光になっては意味がないと思うので、そのような意識を持って10周年に行って欲しい。

【会長】山田委員からは旅費を市が全額負担、派遣後は1年間の活動という意見も出ているが、市の国際化推進活動に積極的に関わってもらえるようになれば、裾野が広がっていくと思う。

【近長委員】市民海外派遣事業を実施するかどうかはまだ決めないでにおいて、まずロングビュー市についての研修会を実施してはどうか。その研修に参加した人の中から、派遣する人を決めるというのも一つの方法である。希望者がいなければ、研修会だけで終わりとする。

【鈴木委員】市長はどのように考えているのか。新座などは何年かに一度、市長が団長として中学生海外派遣事業に参加している。

【事務局】姉妹都市提携をしたきっかけとなった国際高校の姉妹高校も現在は解消されているというのが現状であるが、中学生海外派遣事業については、積極的に続けていく意思である。しかし、市民海外派遣事業については、従来のやり方、目的などが明確でないような内容について、見直す必要があるとしている。

【鈴木委員】市長は、中学生海外派遣事業の結団式や報告会などには出席されていて、この事業に対して評価をしてもらっていると感じたので、市民派遣についてはどう思っているか知りたかった。10年目ということでよい機会であるとは思いますが。

【事務局】従来の派遣では、何かが違うというふうに、担当としても疑問を持っていた。ご提出していただいた皆様からのご意見からも、従来型の派遣事業では無理だということが感じられる。意義のある事業にするために何か新しい提案を懇話会で出していただきたい。

【近長委員】必要なのは、派遣の方法を変えることではなく、和光市でどのように裾野を広げていくかということではないかと。

【山田委員】派遣の方法と同時に考えなければならないことであると思う。

【近長委員】姉妹都市として市長と市長が契約しているのだから、ロングビュー市に関する講座や勉強会、講演会などをする義務が市にあると思う。10周年だから行くというのではなく、ロングビューについて勉強してから、期が熟したら行くという形でよいのではないか。

【事務局】それは、懇話会として意見をまとめていただきたい。もし、懇話会からそのようなご提言をいただいたら、市として十分にその提言を考慮し、どうするか検討する。

【田中会長】主に、市民海外派遣事業について皆さんから意見を伺った。次回の会議は2月ごろを予定しているが、次回でより深い意見交換ができればと思う。事務局には今日出た意見をまとめて、次回までに各委員に送付していただきたい。

【近長委員】その他の意見として、計画を見てもこの間の中間報告を見ても、どれも抽象的で果たして、市が国際化を推進していく態勢にあるのか、どうなのかを感じた。行政当局の国際化推進の意識が足りない部分が多いと感じる。ちょっとした配慮がなく、「自分の仕事ではない」となってしまっているために、苦勞している外国人も多いのではないか。

【鈴木委員】先日、外国人の子どもがうちの学校に転入してくるようになったが、全く情報を知らされなかった。学校教育課が戸籍住民課に言っても個人情報ということで、何も情報をもらえなかったそうだ。受け入れる側としてはある程度の情報がなければ大変困る。そのような連携はとれるはずである。

【近長委員】そのような実情を考え、行政がやるべきことはあるのではないか。

【田中会長】各課で対応はしていると思うが、このような意見が出たことを関係課に伝えて、今後の対応に活かして欲しい。

3 その他（資料3，4）

【事務局】平成19年度和光市文化紹介・国際交流バスツアーを11月17日に実施した。参加者は外国人14人、日本人7人の合計21人であった。行程等については当日配布したしおりを資料3としてお配りしているので、そちらをご覧いただきたい。

【事務局】和光ライオンズクラブさんが「彩の国国際貢献賞」を受賞された。表彰式は12月9日に浦和で行われるが、国際協力講演会として伊達公子さんが公演をするので、関係者にも周知していただきたい。

◇ 第3回会議開催日について ◇

第3回会議は、平成20年2月13日（水）に開催する。

*会議の内容、場所等詳細につきましては後日ご連絡させていただく。